

令和3年度 経営計画書 会計課 会計管理者 松田 重彦

1 部の 使命	市の会計事務を統括する組織として、現金、有価証券の出納・保管、現金及び財産の記録管理、決算の調製を担うとともに、各部局の正確かつ迅速な会計事務の遂行を支援することにより、適正で効率的な会計事務の実現を図り、市民の期待に応えます。
2 それ までの 経 営 評 価	
3 外部 環境	<p>◎機会 【経済】コンビニ納付、ふるさと納税のクレジット納付等納付方法の多様化</p> <p>▼脅威 【経済】日銀のゼロ金利政策に伴う債券・定期預金利率の低下</p>
4 内部 環境	<p>○強み 【使命】使命が明確になり組織力の発揮が可能 【協働】財政担当部局との連携による計画的な資金運用を行う。</p> <p>▽弱み 【人材】少人数の職員体制のため人事の刷新が図りにくい。</p>
5 重要 経営 課題	<ul style="list-style-type: none"> ●市民に信頼される、適正かつ効率的な会計事務の執行 ●歳計現金及び基金に属する現金等の確実かつ効率的な管理・運用 ●日常の調書審査及び会計事務研修を通じての職員の資質向上 ●R3年4月1日稼働の新財務会計システムの確実な運用
6 部の 経営 体制	<p>【所管課】会計課</p> <p>【人員】部長職1名、課長職1名、主幹1名、会計年度1名</p> <p>【歳入予算】基金利子収入（20,224千円）、市預金利子収入（250千円）</p> <p>【歳出予算】会計管理費（1,288千円）、基金利子積立（20,224千円）</p>

7 部の 経営 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支払遅延件数の減少 ・ 不適格調書数の減少 ・ 基金の効率的運用による平均運用利回りの向上 ・ 会計事務研修会の実施 ・ 指定及び収納代理金融機関検査の実施
8 部の 経営 方針	<ul style="list-style-type: none"> 【市民】 窓口における丁寧な市民対応と確実な公金の収受 【経営】 基金の一括運用による効率的運用の強化 【協働】 各部局との連携による適正な会計事務の遂行 【人材】 各種研修等を通じて職員の会計事務処理能力の向上を図る。 【改善】 業務改善による効率的な会計事務の遂行
9 部の 重要 政策 の取 組内 容	<ul style="list-style-type: none"> 【新規】 R3年4月1日稼働の新財務会計システムの確実な運用を図る。 【拡大】 基金の一括運用のメリット生かし、債券運用の計画的運用を図る。 目標/R3年度 10億円の債券購入 【改良】 これまで調定調書については、会計課での審査後会計課で保管していたが、原課に返却し原課での保管とする。
10 経営 の仕 組み に関 する 取組 内容	<ul style="list-style-type: none"> 【組織・業務】 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 関係組織との協働／日頃から他部局との意思疎通を図り、問合せ等にも的確に対応し、会計事務の迅速化・適正化につなげる。 ◆ 部内会議の開催／部内会議を原則月単位で開催し、年間計画の進捗状況を踏まえた迅速な対応体制を確立する。 【能力】 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 人材育成の強化／経営企画部が実施する職員研修等に参加し、部職員の市民起点の人材育成を進める。また、近隣自治体と共同実施する会計事務研修会に参加し、部職員の会計事務処理能力の向上を図る。 【情報】 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 情報共有の推進／朝のミーティング、定期的な部内会議等で職員間の情報共有を進める。